

目 次

はじめに v

第1章 コミュニケーションモデル…………… 1

- 1.1. はじめに 2
- 1.2. 語用論と認知語用論 7
- 1.3. 規則と原則 10
- 1.4. 語用論的能力と普遍性 16
- 1.5. 英語の語用論, 日本語の語用論 22
- 1.6. コードモデル 24
- 1.7. 推論モデル—Grice の会話の規則 26
- 1.8. 関連性理論のモデル 33
 - 1.8.1. 意図明示推論的コミュニケーション 33
 - 1.8.2. 関連性とは 35
 - 1.8.3. 関連性の原理 37

第2章 表意と推意…………… 41

- 2.1. 基礎表意 42
 - 2.1.1. 曖昧性の除去 43
 - 2.1.2. 飽和 43
 - 2.1.3. 自由拡充 45
 - 2.1.4. アドホック概念と緩和化／絞り込み 47
- 2.2. 高次表意 51
- 2.3. 推意 53
 - 2.3.1. 推意の種類 53
 - 2.3.2. 強い推意, 弱い推意 57

第3章	メタ表象と言語表現	61
3.1.	サリーとアンの実験	62
3.2.	メタ表象と引用	64
3.3.	メタ表象とダイクシス	65
3.3.1.	場所のダイクシス	67
3.3.1.1.	ダイクテックな用法と非ダイクテックな用法	68
3.3.1.2.	同軸型のダイクシスと相対型のダイクシス	71
3.3.2.	Iとyou	75
3.3.3.	指示語	80
3.3.4.	「くれる」と「もらう」, 「やる [あげる]」	83
3.4.	日本語の明示性	90
3.4.1.	「たい／たがっている」	90
3.4.2.	高次表意現象と日本語	93
3.4.3.	日本語の文末表現	97
第4章	修辞表現	103
4.1.	修辞表現とルース・トーク	104
4.2.	メタファーとシミリ	107
4.2.1.	メタファー／シミリとアドホック概念	111
4.2.2.	メタファーとアドホック概念	112
4.2.3.	シミリとアドホック概念	115
4.2.4.	メタファーとシミリの文脈効果	121
4.3.	メトニミー	123
4.4.	アイロニー	126
4.5.	トートロジー	129
4.6.	そのほかの修辞表現	134
4.6.1.	いやみ	135
4.6.2.	控えめ表現	137

第5章 テクストをめぐって	
—書き手の「心」を読む—	141
5.1. テクストとメタ表象	142
5.2. テクストにおける直接引用	144
5.3. 地の文とメタ表象	150
5.3.1. 二つの過去完了	151
5.3.2. 場面のライブ化と脱ライブ化	154
5.4. メタ表象と自由間接話法	159
5.4.1. いわゆる自由間接話法について	160
5.4.2. 地の文, 自由間接話法, その境界	161
5.5. テクストと推意の強弱	164
5.5.1. ‘After Twenty Years’	165
5.5.2. ‘While the Auto Waits’	168
5.5.3. ‘Cat in the Rain’	171
5.5.3.1. 猫の identity についての解釈	173
5.5.3.2. 推意の却下可能性について	175
5.5.3.3. 猫の identity と推意の強弱	178
5.6. 『さよならドビュッシー』	182
参考文献	187
索引	195